

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育カウンセラー事業
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	臨床心理士と保育課保育士が保育所を巡回訪問し、児童虐待の疑い、養育困難など処遇の困難なケースの対応について、保育士の相談に応じ、子どものケアなど必要な指導を行います。また、緊急の案件が生じた際に、迅速に保育所に出向き、児童、保護者、保育士等の心のケアを行います。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	保育課保育士とともに保育所訪問を行い、保育所の相談に応じ、子どものケアなどの必要な指導を行う。				
これまでの進捗状況・今後の予定		虐待対象児在籍の保育所の訪問数 83回	保育課保育士とともに保育所訪問を行い、保育所の相談に応じ、子どものケアなどの必要な指導を行う。				
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）	関係機関および虐待対象児在籍の保育所の訪問数		計画	平成22年度 90 回程度	平成23年度 100 回程度	目標
		保育課保育士と臨床心理士が保育所を訪問し、虐待等の疑われる子どもの観察・指導・保育所職員のカウンセリング等を実施することが、子どもの支援となり、保育所の質の向上になるので指標とあげました。		実績	83 回		内容
			達成度	92.2 %	%	年度	
			計画			内容	
			実績			年度	
			達成度	%	%	内容	
【コスト】	事業費	1,210 千円		1,584 千円			
		うち一般財源 千円		1,584 千円			

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	関係機関及び虐待の疑われる子どもやその保護者に関わる保育所(60か所)を訪問しました。93件の事例について、保育士等から児童のケアや保護者の支援や指導について相談を受け、必要な指導を行いました。また緊急支援2件を行い、児童・保護者・保育士等の心のケアを行いました。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	虐待等が疑われる子どもやその保護者に関わる保育所の職員に対してカウンセリング等を行うことで、保育所が抱えている実態を把握することができました。93件の事例について保育所への助言・指導を通じ、虐待への意識の向上・保育所の負担軽減を行いました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	保育カウンセラーの賃金は子ども総合センターの臨床心理士報酬費に基づき、金額を設定しています。カウンセリング等の専門的指導をするうえで、これ以上のコスト削減はできません。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	虐待が年々増加している中、被虐待児や虐待が疑われる児童への対応、保護者への関わりが難しくなっています。児童のケアや保護者対応について助言指導することは、虐待の早期対応・防止等に高い効果があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	被虐待児は複雑な個人情報が多く、子ども総合センターなどの関係機関との連携のためにも市が実施することが適当です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	保育所を訪問し、保育士の相談に応じ、子どものケアなど必要な指導を行うことは、虐待が深刻化する前に適切な支援となります。保育所からの相談内容によっては、複数回の訪問が必要です。臨床心理士の派遣回数を増やし、保育所の保育相談や相談機能の強化を図ります。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	被虐待児を保育している保育所全体を支援するため、関係機関や保育所への訪問回数を年間100回に増やします。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	研修内容の充実(保育所)
-----	--------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	施設長や保育士等の資質向上のため、北九州市社会福祉研修所の研修について、その効果を検証しながら内容等の検討を行い、一層の充実を図ります。具体的には相談技術、児童虐待問題、情報化や国際化等の研修を充実します。また、市内外で行われる専門研修に積極的に参加します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	階層別、課題別、職種、施設別研修を計画し、施設長や保育士等の資質向上を図る				
これまでの進捗状況・今後の予定	実施計画17項目、延べ日数90日、延べ参加人数4,700名実施 研修時間:343時間	階層別、課題別、職種、施設別研修を計画し、施設長や保育士等の資質向上を図る					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	施設長や保育士等の研修の実施		計画	343 時間			年度
	社会福祉研修所において、新任・中堅・主任級研修や課題別(言葉・表現・健康)研修、保育セミナー、乳児保育、統合保育、カウンセリング研修、心理学、施設長研修等全17項目を実施します。		実績	343 時間			内容
			達成度	100 %	%		内容
			計画				年度
			実績				内容
		達成度	%	%		内容	
コスト			事業費	4,218 千円	3,064 千円		
			うち一般財源	2,230 千円	2,753 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 計画した17項目(延べ日数90日 延べ参加人数4,700名)の研修を年度内に履修しました。

【事業の再検証】			
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	経験年数や職種別にきめ細かく計画を立てて研修を実施することで、保育に内容を活かすことができ、保育士等の資質向上のために有効性は高いと考えます。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	福祉事業団に委託された社会福祉研修所は、長年の実績があり、優れた研修のノウハウも持っています。同コストで今まで以上の研修を実施することは困難と考えます。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	保育所保育指針に示されているように、研修の位置づけは大変重要です。保育の質の向上に向けて実施していかなければなりません。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	乳幼児保育は市の責務です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	市の責任において、今後も研修の充実を図り、積極的に取り組む必要があります。現在の研修項目を時代のニーズに答えるべく見直しをしながら、計画を立てて施設長をはじめ保育士等の参加を一層促し、質の向上を図ります。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	現在の研修項目を時代のニーズに応えるべく見直しをしながら、計画をたて、研修内容の充実を図ります。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	認可外保育施設研修代替職員費補助
-----	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州市内に所在する認可外保育施設(届出対象施設)が市主催の研修に参加するために、代替職員を雇用した場合の経費の一部を補助することにより、認可外保育施設の職員の資質向上および入所児童の処遇向上を目指します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	認可外保育施設の職員に市主催の研修に参加させ、職員の資質向上を図る					→	
		これまでの進捗状況・今後の予定	認可外保育施設の職員に市主催の研修に参加させ、職員の資質向上を図る。 31施設中28施設参加	認可外保育施設の職員に市主催の研修に参加させ、職員の資質向上を図る					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標		
	研修に参加した認可外保育施設		計画	31 施設	全施設	年度			
	施設における安全保育や子どもの人権、保育技術等の研修、感染症等の最新の情報を盛り込んだ研修会へ参加することで、職員の資質向上を図ります。		実績	28 施設		内容			
			達成度	90.3 %	%	年度			
			計画			内容			
			実績			内容			
		達成度	%	%					
コスト			事業費	108 千円	188 千円				
			うち一般財源	53 千円	95 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	対象施設31施設中、28施設が研修に参加しました。 22.8.5 30施設中21施設参加(33人) 22.11.25 32施設中17施設参加(16人) 22.12.5 32施設中20施設参加(34人) 23.3.18 31施設中24施設参加(37人)

【事業の再検証】			
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、認可外保育施設に従事する職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を図るものであり、平成22年度においては、対象施設31施設中、28施設が研修に参加しており、ニーズが高く、その有効性は高いと考えます。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	研修代替職員に係る経費の補助については、認可保育所における補助基準単価に基づき支出しています。雇用に係る経費の一部補助であるため、これ以上補助額を下げると、代替職員の雇用ができず、研修への参加を断念する施設が増えるおそれがあります。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	認可外保育施設に対する補助制度そのものが少なく、厳しい経営状況である施設が少なくない中、当該補助制度をなくしてしまった場合、研修への参加率が低くなり、職員の資質の向上が図れなくなるおそれがあります。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	児童福祉法により、認可外保育施設の指導監督(保育の質の向上)は市の責務とされており、市以外で実施することは困難です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	保育の質の向上には職員の資質向上が基本であり、研修は大きな効果があります。引き続き、現在の内容で事業を実施し、認可外保育施設の指導強化を図ります。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	研修を実施する際は、すべての対象施設に当該事業について通知を行い、また研修参加の申し込みのない施設に対しては、個別に連絡することで研修の参加を促すとともに、当該補助についても適宜案内することとします。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

<b>政策分野</b>	仕事と子育ての両立支援
-------------	-------------

<b>事業名</b>	保育指導専門員の配置
------------	------------

<b>【事業の概要】</b>	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	認可外保育施設の指導監督を強化するため、認可保育所の所長経験者2名を保育課に配置し、きめ細やかな指導を行います。		
	その結果、実現を目指す施策名	<b>施策名</b>	保育サービス	

<b>【手】</b>	<b>目的実現の為に実施する内容</b>	<b>実施工程</b>	当初の予定	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
			これまでの進捗状況・今後の予定	認可保育所の所長経験者を2名配置	認可保育所の所長経験者を2名配置							
		認可保育所の所長経験者を配置し、認可外保育施設の指導監督の強化										
		<b>実施状況</b>	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標			
			保育指導専門員の配置数			計画	2 名	2 名	年度			
			認可保育所の所長経験者を2名配置し、きめ細やかな指導を継続します。			実績	2 名		内容			
			認可外保育施設への立入調査の実施			計画	31 施設	全施設	年度			
			認可外保育施設(届出対象施設全て)に立入調査を行い、指導監督を行います。			実績	31 施設		内容			
						達成度	100 %	%				
						達成度	100 %	%				
<b>コスト</b>	事業費			3,168 千円	7,018 千円							
	うち一般財源			3,154 千円	6,982 千円							

<b>【事業の実施結果・進捗状況の確認】</b>	
<b>実施結果</b>	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 認可保育所の所長経験者を配置し、きめ細やかな指導を継続しました。届出対象認可外保育施設31施設に対し、立入調査など必要な助言及び指導を実施しました。

<b>【事業の再検証】</b>				
<b>評価</b>	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	本事業は、認可外保育施設に対する指導監督を強化するため、保育指導専門員を2名配置し、きめ細やかな指導を行うものであり、その有効性は高いと考えます。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	現在の指導専門員は、嘱託員であり、経済性や効率性も重視した雇用形態としています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	認可外保育施設に対するきめ細やかな指導を行うことで、事故の防止や国の指導監督基準を遵守していくことが必要であり、その適時性は高いと考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	児童福祉法により、認可外保育施設の指導監督(保育の質の向上)は市の責務とされており、市以外で実施することは困難です。
<b>今後の方向性</b>	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		保育指導専門員によるきめ細やかな指導監督は、認可外保育所の保育の質の向上であり、子どもの健やかな育ちを保障し保護者支援となります。引き続き、現在の内容で事業を実施します。

<b>【次年度計画】</b>		
目的実現のために23年度に実施すること	認可保育所の所長経験者を2名配置し、きめ細やかな指導を継続します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
---------------------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	児童福祉施設等第三者評価事業
-----	----------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所や児童養護施設等について、より適切な情報の提供やサービスの質の向上を図るため第三者評価事業の一層の普及を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初の予定	事業者の提供するサービスの質の向上、サービスを利用しようとする方への適切・円滑な情報提供を行う	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		これまでの進捗状況・今後の予定	第三者評価事業 通常評価:10施設 再評価:10施設 フォローアップ研修会開催	事業者の提供するサービスの質の向上、サービスを利用しようとする方への適切・円滑な情報提供を行う。						
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)			平成22年度		平成23年度		目標	
		「第三者評価事業」参加施設数(総数)			計画	157	施設			年度
		「第三者評価事業」参加施設数を指標として掲げました。			実績	124	施設			内容
					達成度	79	%	%	-	
		「第三者評価事業フォローアップ研修会」開催			計画					年度
		市内認可保育所の施設長、保育士を対象に「第三者評価事業フォローアップ研修会」を開催し、「北九州児童福祉施設等評価基準(保育所編)」の活用について理解を促進し、事業参加への動機付け及び保育の質の向上を図っています。			実績	開催				内容
	コスト				事業費	2,211	千円	3,890	千円	-
					うち一般財源	2,211	千円	3,890	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 「第三者評価事業フォローアップ研修会」を開催しました。(平成22年6月30日、7月14日) 市内認可保育所について、通常評価10施設、再評価(三年度評価)10施設の第三者評価を実施しました。

【事業の再検証】			
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、事業者の提供するサービスの質の評価を行うとともにサービスの利用を予定している方に対して適切・円滑にサービスを利用できるよう情報提供を行うものであり、その有効性は高いと考えます。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	本事業は経済的・効率的に実施しています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	保育サービスの向上は重要な課題であり、本事業の実施は施策実現に対して高い効果が期待できます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	本市の認可により運営を行っている「認可保育所」を事業対象としており、実施主体として市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	引き続き、現在の内容で事業を実施します。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	未参加施設への事業参加を積極的に促し、第三者による評価を通して、保育所のサービスの質の向上と利用しようとする方への情報提供を行います。	前年度に評価した今後の方向性



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	認可外保育施設衛生・安全対策事業(職員分)
-----	-----------------------

【事業的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	認可外保育施設に従事する職員の感染症などへの罹患を未然に防止することにより、施設を利用する児童の衛生及び安全を確保するため、北九州市内に所在する認可外保育施設に勤務する職員の健康診断に要する経費の一部を、市が予算の範囲内で補助します
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
			当初の予定		認可外保育施設に従事する職員の感染症などへの罹患を防止し、児童の衛生および安全の推進						
			これまでの進捗状況・今後の予定	健康診断を実施した認可外保育施設31施設中27施設	認可外保育施設に従事する職員の感染症などへの罹患を防止し、児童の衛生および安全の推進						
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標				
	職員の健康診断を実施した認可外保育施設		計画	31 施設	全施設		年度				
	施設を利用する児童の衛生及び安全を確保するため、職員の健康診断の実施を促進します。		実績	27 施設			内容				
			達成度	87.1 %	%		内容				
			計画				年度				
			実績				内容				
		達成度	%	%							
コスト			事業費		平成22年度		平成23年度				
			うち 一般財源	28 千円	125 千円		84 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 認可外保育施設(届出対象施設)31施設中、職員の健康診断を27施設が実施しました。

【事業の再検証】				
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、認可外保育施設に従事する職員の感染症などへの罹患を未然に防止することにより、施設を利用する児童の衛生及び安全を確保することを目的としており、ニーズが高くその有効性は高いと考えます。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	補助額については、制度創設時における本市が一般市民向けに実施する基本健診受診料を参考としており、これ以上補助額を下げることで、これまで健康診断を実施してきた施設が実施しなくなるおそれがあります。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	認可外保育施設に対する補助制度そのものが少なく、厳しい経営状況である施設が少なくない中、当該補助制度をなくした場合、健康診断を実施しなくなる施設が増え、結果的に施設を利用する児童の衛生及び安全を確保することが難しくなるおそれがあります。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	児童福祉法により、認可外保育施設の指導監督(健康管理・安全確保)は市の責務とされており、市以外で実施することは困難です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	引き続き、現在の内容で事業を実施します。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	未実施の施設に対し、職員の健康診断に必要な費用の一部負担を行う当該補助金の制度について再度案内を行い、実施に向けて引き続き指導を行うこととします。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	認可外保育施設衛生・安全対策事業(児童分)
-----	-----------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	乳幼児の衛生及び安全を確保し、その健全育成に資するため、北九州市内に所在する認可外保育施設を利用する児童の健康診断に要する経費の一部を、市が予算の範囲内で補助するものです
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	認可外保育施設を利用する児童の健全育成に向けて健康診断の実施					
これまでの進捗状況・今後の予定	健康診断を実施した認可外保育施設31施設中28施設	認可外保育施設を利用する児童の健全育成に向けて健康診断の実施						
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度		平成23年度		目標	
	児童の健康診断を実施した認可外保育施設		計画	31	施設		年度	
	乳幼児の衛生及び安全を確保し、その健全育成に資するため、児童の健康診断の実施を促進します。		実績	28	施設		内容	-
			達成度	90.3	%	%	年度	
			計画				内容	
			実績				内容	
		達成度	%	%				
コスト			事業費		537	千円	717	千円
			うち一般財源		537	千円	717	千円

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	認可外保育施設(届出対象施設)31施設中、児童の健康診断を28施設が実施しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、乳幼児の衛生及び安全を確保し、その健全育成に資することを目的とするため、ニーズが高くその有効性は高いと考えます
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	児童の健康診断に要する経費の一部補助の額(児童一人当たり1500円)は、認可保育所の嘱託医に係る経費に基づき算出された金額であり、これ以上補助額を下げると、これまで健康診断を実施してきた施設が実施しなくなるおそれがあります。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	認可外保育施設に対する補助制度そのものが少なく、厳しい経営状況である施設が少なくない中、当該補助制度をなくしてしまった場合、健康診断を実施しなくなる施設が増え、施設を利用する児童の衛生及び安全を確保することが難しくなるおそれがあります
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	児童福祉法により、認可外保育施設の指導監督(健康管理・安全確保)は市の責務とされており、市以外で実施することは困難です
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	引き続き、現在の内容で事業を実施します

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	未実施の施設に対し、児童の健康診断に必要な費用の一部負担を行う当該補助金の制度について再度案内を行い、実施に向けて引き続き指導を行うこととします。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
---------------------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	家庭支援推進保育事業の実施
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	家庭環境に対する配慮など、保育を行う上で、特に配慮を必要とする子どもと保護者への支援に取り組み、子どもの健やかな育成を図ります。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	家庭支援推進保育実施保育所において、必要に応じて保護者等に助言、子どもたちの生活環境の改善等処遇向上を図る				
これまでの進捗状況・今後の予定	家庭訪問や個人懇談を実施している保育所数	17施設	家庭支援推進保育実施保育所において、必要に応じて保護者等に助言、子どもたちの生活環境の改善等処遇向上を図る				
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	家庭訪問や個人懇談を実施している保育所数		計画	17 施設			年度
	家庭訪問や個人懇談をすることで、子どもについての情報交換や保護者等への助言をすることができ、子どもの健やかな育成を図ることができます。		実績	17 施設			内容
			達成度	100 %	%	%	
			計画				年度
			実績				内容
		達成度	%	%			
コスト			事業費	58,845 千円	68,719 千円		
			うち一般財源	千円	45,078 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 保育所では保護者との信頼関係を築き、子育て支援を行いました。家庭支援推進保育実施保育所を中心にケース検討や事例研究、講演を含む研修会を開催しました。特に配慮を必要とする子どもと保護者への支援に取り組みました。

【事業の再検証】				
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	保育士等が生活の実態を把握し、保護者に寄り添いながら、生活リズムや愛情豊かな大人の関わりの大切さ等を具体的に話し示すことで、子どもの健やかな育成を支援でき効果が大いと思います。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	保育所の機能を活かして子どもの発達援助や保護者の子育て支援をするので、低いコストで高い効果が得られます。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	支援の必要な親子のみならず、保育所全体の子どもと保護者が対象となるので、影響は大いと思います。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	乳幼児保育は市の責務です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ウ	今後とも、子どもの健やかな育成を図るために、保育所の機能を活かした支援の充実を目指します。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	特に配慮を必要とする子どもと保護者の支援を積極的に取り組みます。ケース検討・事例研究を行い、保育の質の向上と自己研鑽のため、研修会の開催を継続します。	前年度に評価した今後の方向性



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・総務課
連絡先	582-2403

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	社会福祉施設従事者研修の充実
-----	----------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所、老人福祉施設、障害者福祉施設など、社会福祉施設において利用者のニーズにあった質の高いサービスを提供するため、従事職員の資質向上を図る研修(階層別研修、専門研修など)を実施します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	研修事業の実施 【年間計画】 階層別:6回入、延べ9回 専門:18回入、延べ24回	研修事業の実施			
これまでの進捗状況・今後の予定	[H23.3末現在] 階層別:6回入、延べ9回 専門:18回入、延べ24回実施 参加者延べ数:1,992人	研修事業の実施					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	参加者・受講者数(延べ)			計画	2,200 人	2,200 人	年度 平成26年度
	市内の社会福祉施設等従事者に対して一定程度研修機会を提供できたかを図るため、受講者数を活動指標とします。			実績	1,992 人		内容 2,200人
				達成度	90.5 %	%	
				計画			年度
				実績			内容
			達成度				
コスト				事業費	45,739 千円	47,392 千円	/
				うち一般財源	42,877 千円	44,766 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 当初計画のとおり各種研修を実施し、それぞれの研修の受講者数も概ね定員に達するなど、十分な成果が上がっています。

【事業の再検証】				
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	毎年、研修の受講者数は予定の2,000人を確保できており、福祉人材の資質向上に一定の成果を上げています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	統合保育研修やカウンセリング研修を教育委員会との共催により実施するなど、コストの縮減に努めています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	福祉サービスに対する需要の増加、質の多様化・高度化の現状から、社会福祉施設等従事者に対する研修機会を常に提供し、資質向上を図っていく必要があります。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	社会福祉法第21条及び同法第89条の規定による「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本的な指針」に基づき、今後も市が主体的に実施する必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		本市における社会福祉の増進には、福祉サービスを担う人材の確保、資質向上の取組みは不可欠であり、当該研修の必要性は高いです。現委託先である北九州市福祉事業団以外に実施可能な団体が存在しないため、引き続き現状の形態で進めながら、効果的な研修を実施するための内容充実に努めていきます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	福祉サービスを担う人材の確保、資質向上に効果的な研修を実施するための内容充実に努めます。	前年度に評価した今後の方向性